

平成25年度市民企画事業補助金 交付事業成果報告書

事業名	発達障がいに対する理解を深める音楽ムーブメント体験会の実施と「発達に凸凹のある子ども達」の受け入れ		
団体名	一般社団法人チャイルドライフ		
事業費	3,025,073円	補助金額	900,000円

事業の目的・内容	目的 ① 「学童保育」にも「放課後等デイサービス」にも居場所を見つけにくい「発達に凸凹のある子どもたち」の放課後の居場所を「学童保育ベルテール」内に作り、環境を整え日常的な生活習慣を支援する。 ② 「発達に凸凹のある子」の支援に当たる当事者がともに学び交流できる「音楽ムーブメント体験会」を実施する。支援に当たる当事者が、子供たちや保護者の気持ちや願いを知ることで、地域一丸となって支援に取り組むような場を作る。
	内容 ① クリエイト音楽ムーブメント体験会 ② 発達に凸凹のある子の生活支援について勉強会 ③ 学童保育ベルテールにおける「発達に凸凹のある」子供たちの受け入れ

事業の活動実績	<活動実績> クリエイト音楽ムーブメント体験会および勉強会 地域の子供たちと保護者が参加する体験会・勉強会を全9回（うち事業年度内8回）実施。  良かった点：当初想定していた保護者や子供たち・当法人の職員だけでなく、他の通所支援事業所の職員さんや地域の保育園の先生など、当初想定していたのとは違った形で地域からの参加者があり、支援にあたる地域の輪を予想以上に広げることができた。  反省点：学生ボランティアの受け入れを想定していたが、明星大学や城西大学からの学生さんについてインターンシップの形で受け入れた。地域ボランティアも参加が無く、計画していたボランティアに対する謝礼がほとんど発生せず、期中で予算計画を修正・変更申請した。
---------	---

事業の様子または成果がわかる写真①  
 <ムーブメント体験会>



事業の様子または成果がわかる写真②  
 <支援にあたる大人による勉強会>



様式9 (2枚目)

事業の成果・効果	<p>&lt;実施後の効果評価&gt;</p> <p>成果：放課後等デイサービスとの連携の元、アスペルガー症候群・情緒障害・軽度発達障害のある子の適切な放課後の居場所を作ることができた。学童保育において予想以上にスムーズにこうした特性を持つ子たちの居場所を作ることができ、派生的な効果として、普通学級に在籍しているが軽微な発達障がいを持つと思われる子たちの落ち着いた居場所も実現することができた。地域コミュニティにおいて、健常児・障害児の区分にかかわらない、さまざまなタイプの子ひとりひとりが満足できるような丁寧なケアモデルとして、学童保育と放課後等デイサービスの連携が有効であることは実証できた。</p> <p>課題：メインの居場所が、学童保育からデイサービスに途中で移っていったケースがあった。①子ども自身が放課後等デイサービスを居場所として気に入ってしまった場合。②保護者が“学童保育よりも放課後等デイサービスの方が、保護者負担が少ない”ことに気が付いた場合</p> <p>本事業で得たこれらの経験から「発達に凸凹のある子たち」に対する充実した学習支援体制を実現させるためには、本計画で当初想定していた学童保育内で行うのではなく、「学習支援型の放課後等デイサービス」の方が有効、と考え始めた。対象年齢についても当初考えていた小学生ではなく一人一人の特性やできることが明確になってくる中学生（一部小学生の高学年）をメインとし、みなみ野で独自のプロジェクトとすることを考えている。</p>
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>1 できた    2 概ねできた <input checked="" type="radio"/>    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由（3、4と答えた場合のみ） 事業成果については満足しているが、実施回数やボランティアの参加については当初思っていたようには進まなかった。結局、変更申請を行った点は反省点。</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p><input checked="" type="radio"/> 1 できた    2 概ねできた    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由（3、4と答えた場合のみ） 目的はほぼ達成。より発展的な取り組みにつなげていけそう。</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>1 ほとんど同じ    2 多少の変更があった    <input checked="" type="radio"/> 3 大幅に変更している</p> <p>主な理由（2、3と答えた場合のみ） 外部講師・ボランティアに対する謝礼・交通費などが見込とは異なってしまい、11月に変更申請を行った。 参加者が集まらなかった場合などにおいて、12回の予定のうち9回しか行うことができなかった。</p>
	その他、評価すべき点等	<p>「放課後等デイサービスと学童保育の連携」については、予想以上に効果があり、今後当法人の子どもの居場所づくりのモデルとなる成果であった。実際に千葉県木更津市においても、放課後デイと学童の連携による居場所づくりに平成26年1月から取り組んでいる。</p>

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>本事業は「学童保育内に軽度の発達障がいのある子の居場所をつくる」ことを目標として、一応の成果を上げることができたが、1年間の取り組みの経験からこの取組は学童保育内で行うよりもそれに特化した放課後等デイサービスで行う方がより有効ではないかと考えるに至った。「重い障害のある子中心の預かり型放課後デイサービス」「発達に凸凹のある子（軽度発達障害のある子）中心の学習支援型放課後等デイサービス」「定型発達児の学童保育」の3機能を整備することを検討する。市民企画事業としては今年度で完了し、「学習支援型デイサービス」の実現に向けて取り組んでいきたい。</p>
---------	--

様式9 (2枚目)